

安全に資する科学技術推進プロジェクトチーム第16回会合
議事要旨

1. 日時：平成18年1月19日（木）15:00～16:30
2. 場所：合同庁舎4号館 4階 共用第4特別会議室
3. 出席者：

薬師寺泰蔵（座長）	総合科学技術会議議員
阿部博之	総合科学技術会議議員
岸本忠三	総合科学技術会議議員
柘植綾夫	総合科学技術会議議員
黒田玲子	総合科学技術会議議員

(招聘専門家)

大野浩之	内閣官房情報セキュリティセンター 緊急対応支援チーム 総括・指導担当
小野正博	警察庁警察政策研究センター 所長
北岡元	国立情報学研究所 教授
倉田毅	国立感染症研究所 所長
中込良廣	京都大学原子炉実験所 教授
村山裕三	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授

以上敬称略、五十音順

他、事務局

4. 議事概要

(1) 科学技術に関する基本政策について

- ・ 「諮問第5号『科学技術に関する基本政策について』に対する答申」について、平成17年12月27日の総合科学技術会議において決定・答申された旨、事務局より説明。今後の第3期科学技術基本計画策定に向けた流れについて説明。現在、上記の答申を受け、政府で基本計画案を検討中。基本政策専門調査会との審議を経て3月目途に閣議決定の予定。

(2) 安全に資する科学技術推進P T報告（仮称）について

- ・ 資料16-2「安全に資する科学技術推進P T報告（仮称）事務局案」、資料16-3「資料集」について事務局より説明。事務局案は招聘専門家へのアンケート、各省の提出意見をもとに記述。
本事務局案を現時点での暫定版とし、各分野推進戦略P Tにおいて中村参事官より説明する。
- ・ 主なポイント
 - 目次 各章の項目まで整理。
 - p.5「(2) 国土と社会の安全確保」という項目を入れて、防災・減災について記述。
 - p.8(5)で「科学技術の不確実性」についても記述。
 - p.15「(1) 効果的な研究開発体制の構築」の構成を整理。
 - p.17「安全に関わる技術信頼性を支える科学技術基盤の強化」を追加。
 - p.19「国民自身の自主性・自立性の高揚」を追加。
 - p.23-24 別表 招聘専門家に実施したアンケート結果及び各分野において現時点で考えられる課題により整理。
- ・ 資料16-4「安全に資する科学技術に関するアンケート」結果（概要）について事務局より説明。
- ・ 意見交換
 - まず、言葉の間違いを指摘すると、p.23別表の「新興・再興感染症」のなかで、「病原性の性状」は「病原体の性状」、「伝達メカニズム」は「伝播メカニズム」である。追加について、p.13-28行目「予防対策」の後に、「・資材の備蓄等体制整備の構築」を入れてほしい。また、「医療関係者」だけでなく「公衆衛生対策従事者」という言葉も入れていただきたい。p.16-9行目「周辺住民との対話を重視し」の後に、「リスクコミュニケーションの推進等により」を入れていただきたい。
 - 文章表現で気になる箇所が散見するので、追って事務局に連絡したい。細かいところをしっかりとっておいた方が英訳した時に内容がわかりやすい。p.21「配慮事項」という章題は変えた方がよい。
 - p.24別表について、NBCテロリズムと各種犯罪にある「衛星による情報収集・解析技術」は、現在の日本の技術だと実際に有効な分析

技術まではなかなかできない。衛星に限らず、成層圏飛行船や地上での情報収集・解析も重要であるので、「衛星等」という表現にした方がよい。

事務局（中村参事官） 大規模自然災害についても同じことがいえるので衛星に限らないで検討したい。

薬師寺座長 新山先生の別表に対する意見について事務局はどう考えるか。

事務局（中村参事官） ライフサイエンス分野からは少し研究課題が細かすぎるという意見があるので、表現の仕方を調整したい。新山先生にはライフサイエンス分野PTのワーキンググループに入っていたくよう調整中である。

○ 全体的には問題ないが、論調が気になる。p.4「(1) 国民生活の安全確保」について、他の項目と文脈が異なるので、「このためどうする」という形式に整えた方がよい。

事務局（中村参事官） そのように修正したい。

○ 強い科学技術の例示から「情報セキュリティ対策」を外したことについて、大筋に関して異論はないが、情報セキュリティは今、頑張っているところなので、少し何かできないかという思いがある。全体的には書くべきところには書いてある。

薬師寺座長 情報セキュリティに関しては事務局案の中にたくさん入っており、安全に資する科学技術に非常に重要である。

黒田議員 p.8「(5) 科学技術の未知性・不確実性への対応」について、必要な要素は入っているが文章がしっくりいかない。技術情報の確度・精度の不完全性が科学に内在する不確実性ということではない。未知性・不確実性は負の側面ではなく科学技術の本質であり、それを理解することが必要である。しっかり表現を練ってほしい。また、ここに「強みの科学技術」という表現は合わない。

薬師寺座長 強いとか強くないというのは相対的な問題である。絶対的な問題として科学技術は未知であり不確実性をもっている。少し丁寧な表現が必要であろう。データをきちんと集める努力をして、それを使えるように供すべきである。

黒田議員 それでも不確実性がまだあるということである。

○ p.15「4-2 安全に資する科学技術推進のための仕組みの構築」の部分は、どういうふうに反映されていくのか。

薬師寺座長 答申には社会科学の問題も入っている。安全に関しては、答申のp.21「新たなニーズに対応した人材養成」や、p.42「社会的課

題への責任ある取組」に書いてある。社会科学に関する研究は、この P Tとして重要なものは具体的な課題を別表に入れていくことになる。

- 具体的な技術には道筋がしっかりしたが、研究開発体制の構築は今後具体的にどういう仕組みでやっていくのか。

薬師寺座長 ある分野の事態・事象において問題があるときに、社会とのコミュニケーションは非常に重要である。社会科学とその分野における研究が非常に重要であるということを具体的にこの別表の中に入れる必要がある。

事務局（中村参事官） フォローアップに関しては、p. 16 に書いているが、ここに具体性をもたせることも考えられる。

阿部議員 文章の修正が必要である。p. 8 「(5) 科学技術の未知性・不確実性への対応」の最初のパラグラフは何のためにあるのかよくわからない。p. 9 の2つ目のパラグラフは、ものすごく大きな被害が発生したときには、それを越えた被害だけは起こさないと読めるので誤解のないように工夫が必要である。p. 9-19 行目「国民の意向を無視した政策」という部分もつながりがわからないので変えた方がよい。

薬師寺座長 これまで継ぎ接ぎで作業してきたので、文章を直す必要がある。

- 各分野は P Tを設置していてそこに安全の横串を通すということだが、戦略重点科学技術に対しても安全という横串が通っていくのか。

薬師寺座長 答申 p. 13①、②、③のところが戦略重点科学技術であり、この3つを横串で考える。「①近年急速に強まっている社会・国民のニーズ（安全・安心面への不安等）」とあるように、戦略重点科学技術に本 P Tの関わる部分が入っている。

了